

広がる域学連携の取り組み



10月27日に健康福祉会館で開催の「エンジョイスポーツ」にボランティアで参加する中京学院大学の学生



大学が地域と密着し、様々な場面で交流・活動して地域を活性化することの大切さを感じました。域学連携を通して地域の方々と交流し、その輪を広げ、地域と関わり、自分を成長させる。中津川市出身の自分にとって、この活動は良いきっかけとなりました。
今後もいろいろな活動に参加し、若い力で地域を支えていきたいと思っています。

中京学院大学2年 小林賢也さん

域学連携とは、大学生と大学教員が地域に入り、住民とともに地域課題の解決や地域づくりに継続的に取り組む活動のことで、学生の感性、行動力、大学教員の知識や経験を生かし、地域の活性化や人材育成へとつなげていくことを目的としています。
今年度、加子母むらづくり協議会が総務省の「域学連携」地域活力創出モデル実証事業の採択を受けました。全国から多くの学生が加子母に滞在し、公開シンポジウム・講義・講座の開催、中学生とのワークショップ、建築実習（木匠塾など）、地域との交流や研究・実践活動に取り組むことで地域への波及効果を生み出しています。
また、今年2月には地元の中京学院大学と包括協定を締結し、域学連

中京学院大学との域学連携も活発に

中学校部活動指導

5月から、毎週木曜日に市内中学校へ行き、部活動の合同練習を行っています。また、中津川ジュニアレスリングクラブとは、大学内で合同練習を行っています。



大学祭

10月には、大学祭と六斎市を共同開催し、初めて「まちなか」で大学祭を開催しました。加子母産業祭との共同企画も開催され、多くのお客様に楽しんでいただきました。



加子母から広がる域学連携

19年目を迎える「加子母木匠塾」を中心に、今年度は全15校延べ3000人近い学生が年間を通して加子母を訪れています。建築、歴史、伝統行事など、加子母地区全体をフィールドとして地域に溶け込み、地域の方を先生とし様々な調査や活動を行っています。



木匠塾の取り組みで古民家改修で土壁を塗る学生

加子母という学びの場

今年で4回目の参加です。建ち上がった製作物を見て、また、地域の方とお話をして、建てるという責任がいかに大きなものであるのかを学ぶことができました。これも、加子母という強い結束を持った地域で長い間学びの場を提供していただいているからこそだと実感しています。これからも木匠塾をどうぞよろしくお願いいたします。



京都大学大学院修士1回生 品川翔一郎さん (木匠塾2013総幹事)



地域の将来について加子母中3年生とワークショップを行う学生

心の故郷ができました

農家さんや中学生との交流、水無神社秋の例大祭などに参加しました。例大祭ではお囃子に参加する機会まで頂きました。地域の方は私を自分の子どもの様に面倒を見てくださり有り難かったです。豊かな自然の中で、このように地域の結束が強まるのだと確信しました。私にとっての心の故郷ができました。



日本福祉大学4年 浅井達浩さん



木材活用の調査で聞き取りを行う学生

地域が先生 自然が教科書

私は今年の5月から加子母を訪れ、様々な地域行事にも参加しています。多くの人と多くの時間を共有する中で、少しずつ少しずつ、地域の方にも自分自身にも変化が現れてきていると感じます。加子母は「地域全体がキャンパス、地域住民が先生、自然が教科書」一本当にそんな学びの場だと感じつつ、これからも訪れ続けたいと思います。



名古屋工業大学4年 佐野智哉さん

携の取り組みを開始しました。中学校での部活動指導や、障がいのある無しに関わらず一緒にスポーツを楽しむイベント「エンジョイスポーツ」へのボランティア参加、西太田町で行われたまちコン「恋なか」に実行委員として参加など、学生が中京学院大学のキャンパスを飛び出し、市内で行われる様々なイベントやボランティア活動に参加しています。
域学連携では、市内全体がキャンパスになります。イベントやボランティア活動など、様々な実践活動に参加することで学生は経験を積みまます。また、学生の外からの視線は、地域に「気付き」を促し、「刺激」を与えます。このことは、地域住民や学生の双方にメリットとなり、人材育成につながります。

中津川市では、今後も域学連携に取り組み、「学生が訪れ、地域とふれあう街」を目指していきます。地域イベントなどで学生を見かけましたら、温かく声をかけてあげてください。
問 市民協働課(☎内線209)